

地域のハザードマップをつくろう！

対象	小学校低～高学年
コマ数	0.5～2 コマ

実践校：足立区立弘道小学校

プログラム要素	災害への備え／防災体制
---------	-------------

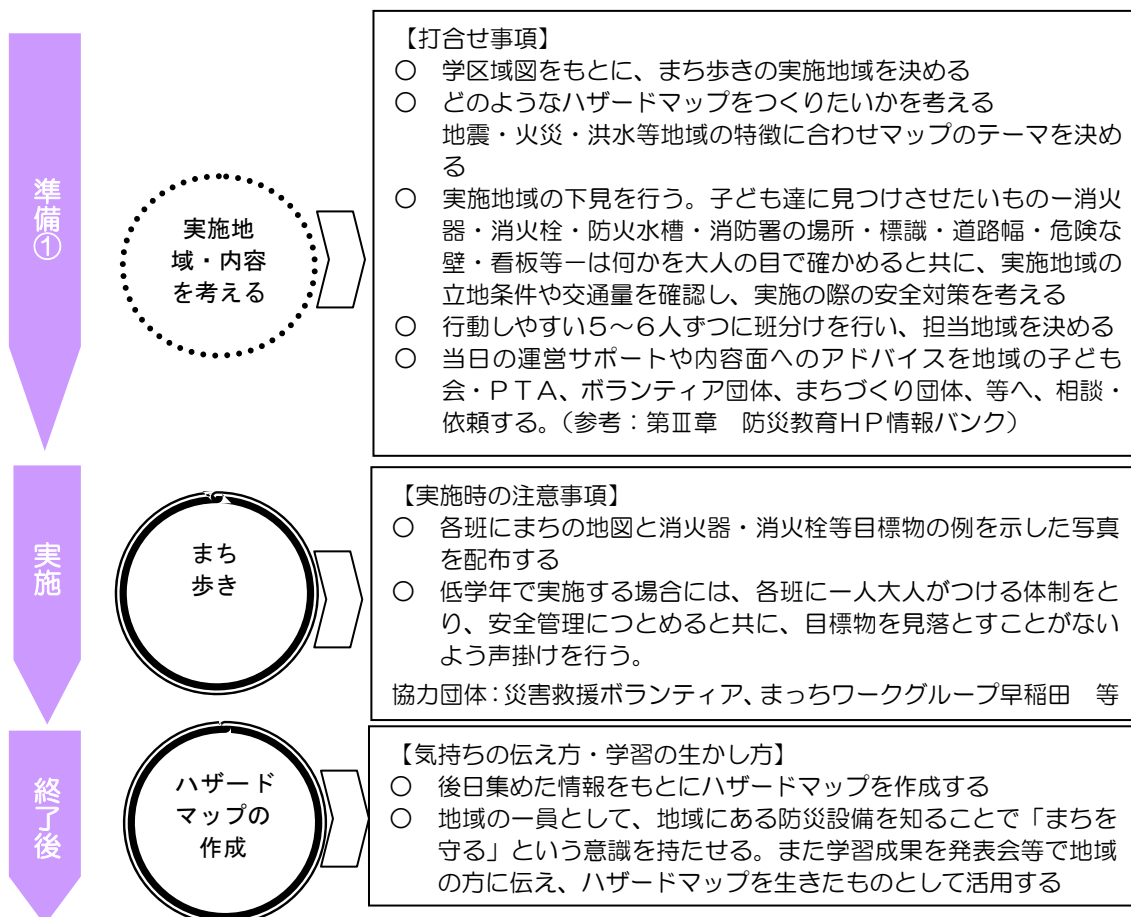
<何をやるの？>

- ☀️ **火災を想定した学区のハザードマップを作成**する。班ごとに地域を回り消火器、消火栓、防火水槽をチェックし、地図上に記入する。発見した消火器等の数を確認すると共に、消火機材・設備のそれぞれの役割を説明する。

<なぜ必要なの？>

- ☀️ 毎日のように通っている通学路ではあるが、子どもの視点から消火器や消火栓を見つけ出すことは難しい。私達が安心して暮らすことができるように、**まちには火災、災害に備えた様々な設備があることに気づかせ、使い方を知る機会**をつくる。

<プログラム実施までの流れ>



時間	内容	実施風景
9:30 ～ 9:35	<p>【避難訓練】 教室から学校近くの丹波野公園まで避難訓練をする。</p>	
9:35 ～ 9:50	<p>【先生の話】 点呼をして確認。防災頭巾をとらせ、避難訓練の総括をする。</p> <p>【ハザードマップ作成の説明】 各班に1セットずつ町の地図と消火器、消火栓の例を示した写真、特別指令書が配布される。町には火災から町を守るための消火器や消火栓、防火水槽などがあると説明され、それぞれ指示通りにマップに印をつけていく。</p>	
9:50 ～ 10:15	<p>【ハザードマップをつくろう！】 13 班ごとに指定された区域内での消火器発見を目指す。振り分けられた地域数と実際の班の数が異なるというハプニングがあったが、児童は地図を頼りに各自の判断で学校周辺の消火器・防火水槽を探しに行く。</p>	
10:15 ～ 10:30	<p>【防災コーディネータ沢野氏による説明】 消火器の合計予想をさせた後、集計結果を発表する。(重複分を含めた結果は110器で、推定では50程の消火器がこの地域にある。) また、各家庭で消火器を所有しているケースを含めると、さらに多くの消火器があると指摘。設置場所により、大きさや収納ケースに差があることや消火栓や防火水槽の役割の違いを説明。 児童が各自で判断し、臨機応変な動きを取ったことは、実際の災害時でも応用できる、大事なことである。</p> <p>【教頭先生の話】 実際の火事の際の心構え。街を守るという意識を持つこと。実際に火事がおきたら、近くの大人にすぐ知らせること</p>	

児童の感想

地りきの防火しせつを見学して

今日はりそがしり所来てくださってありがとうござりました。りろりろ勉強になつて楽しかつたです。地りきに出るのはひさしふりでした。消火器や防火水をみつけた合計は三十五つでした。だけどほかにもりつぱりあると思います。みんなの合計は百十こくりあるそうです。今日、りろりろな所へ行つて消火しせつを見学して楽しかつたです。

2月4日 避難訓練をやりました。

しゅうじきいってやだなと思いましたが、でもやってみるとたのしげと思えました。

丹羽野公園からスタートして、鳥海さんちのところまで、消火器をみつけました。

とんとんみつけていて、おたがらのことをわすれていて、でもヒントをみてみつけました。

4班の男は、へいをのりこえました。

わたしは、のりこえなくて、せいかいでしたへいをこしてたら、たからがみつけられなかつたからです。

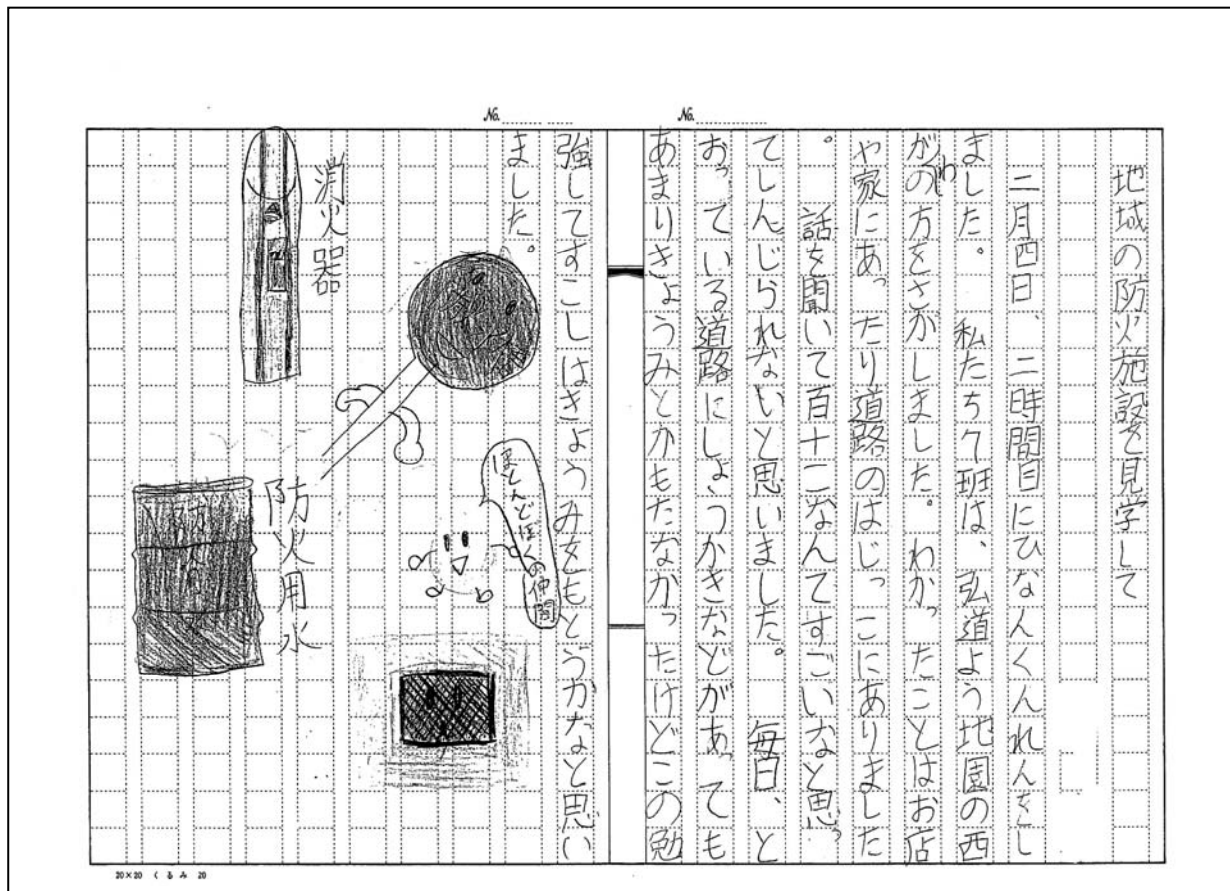
へいをこしてたが、たからがみつけれられたと思います。

今日は、ほんとうにたのしがつたです。

今日は、ほんとうにありがとうございます。

避難訓練のこと

4-2



○●「魅力」？「危険」？●○

防災マップづくりでは、「まちの魅力」や「危険な場所」を調べますが、ガソリンスタンドは「魅力」、「危険」のどちらでしょうか。

阪神大震災では、火災が発生したり延焼の原因になったガソリンスタンドはありませんでした。また、防火壁は延焼を防ぐ役割をし、ジャッキや工具は救助の道具になり、水を多く使うので井戸がある場合もある、など「まちの魅力」といえます。防災マップづくりでは、「まちの魅力」の印をつけましょう。